

まちづくり検討委員会での取り組み

肱川橋周辺まちづくり検討委員会

肱川橋は、肱川兩岸の中心市街地を結ぶ道路であり、橋周辺は大洲城をはじめ大洲市を代表する観光地が点在し、大洲市景観計画区域に指定されており、道路や河川の構造としての問題点の解消だけでなく、環境、景観、周辺整備等様々な観点から検討を行うため、学識経験者、地域住民、行政関係者から構成する『肱川橋周辺まちづくり検討委員会』を設立しました。

第1回委員会

平成21年
9月8日

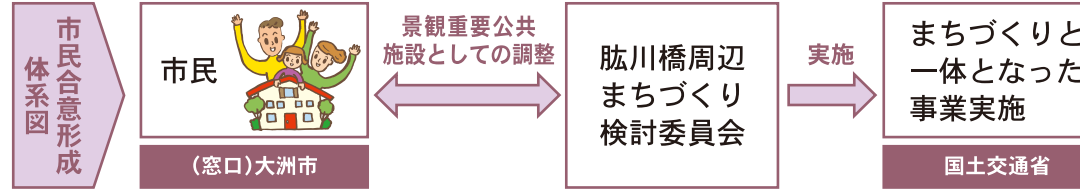


大洲市景観計画を確認し、架替え橋およびアプローチ道路のデザイン方針を決定しました。

デザイン方針

- ①修景護岸の高さを超えない控え目な形態
- ②大洲城や豊かな周辺の自然景観に融和したデザイン、色彩

- ③地域の歴史・文化をより良い方向に導く橋上空間やアプローチ道路
- ④使い易く美しい、将来を見据えたまちづくりへの貢献



第2回委員会

平成21年
12月18日

第1回検討委員会でのデザイン方針を踏まえて、デザインコンセプトを設定しました。

デザインコンセプト	4径間 桁橋
風景 歴史と緑に囲まれた河畔を引き立てる控え目な橋 橋上 どこからでも安心して景色や野囲気を楽しめる橋 街路 地域の大動脈に相応しい風格と憩いのある道	新築 全体模型（5=1/1,000）による確認 「歴史と緑に囲まれた河畔を引き立てる控え目な橋」に最も合致する形式である。

第3回委員会

平成23年
7月28日

桁下からの見え方、水位観測所の復旧、親柱等のデザインについて検討しました。

桁下	水位観測所
添架管は露出とし、色彩については今後検討 	
親柱、歩道舗装 大洲市のまちづくり計画にて今後決定	瓦屋根デザイン を採用

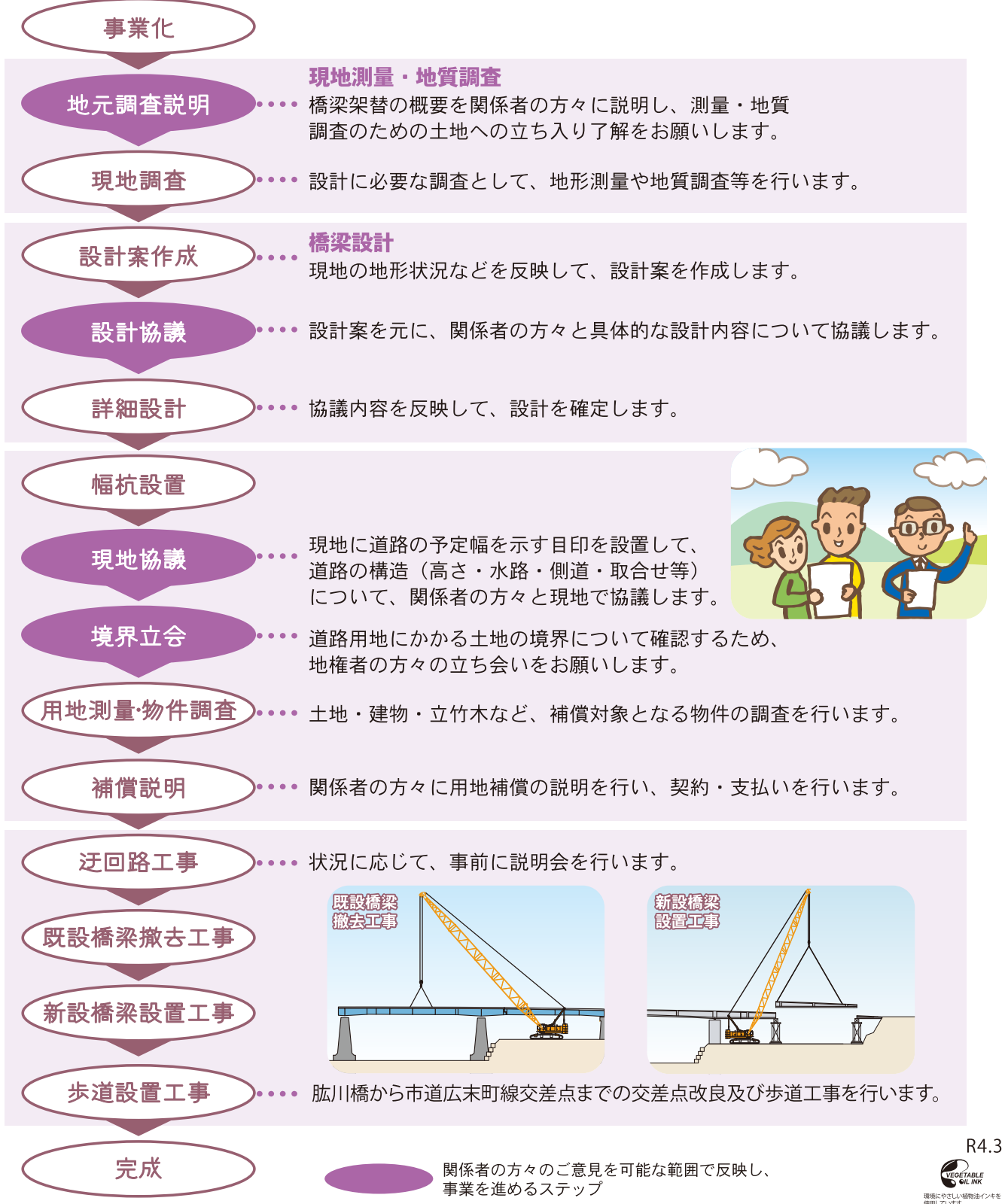
第4回委員会

平成29年
12月22日

桁下、歩道舗装や道路附属物（親柱や照明等）のデザインについて検討しました。

歩道舗装	親柱	照明の配置
○脱色アスファルトを採用	○地域性と歴史性をさりげなく表現した「レンガ使用」を採用	○周辺景観と調和を図った、等間隔での配置案を採用

事業の進め方



国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所

〒795-8512 大洲市中村210
TEL 0893(24)5185
FAX 0893(24)2059
URL <http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/>

道路緊急ダイヤル #9910(無料) (24時間受付)
※夜間・土曜・日曜・祝祭日は対応出来ない場合があります。

四国の交通規制・道路気象情報は 四国地方整備局 道路情報提供システム <http://www.skr.mlit.go.jp/road/info/>

こちらのQRコードからご利用いただけます。

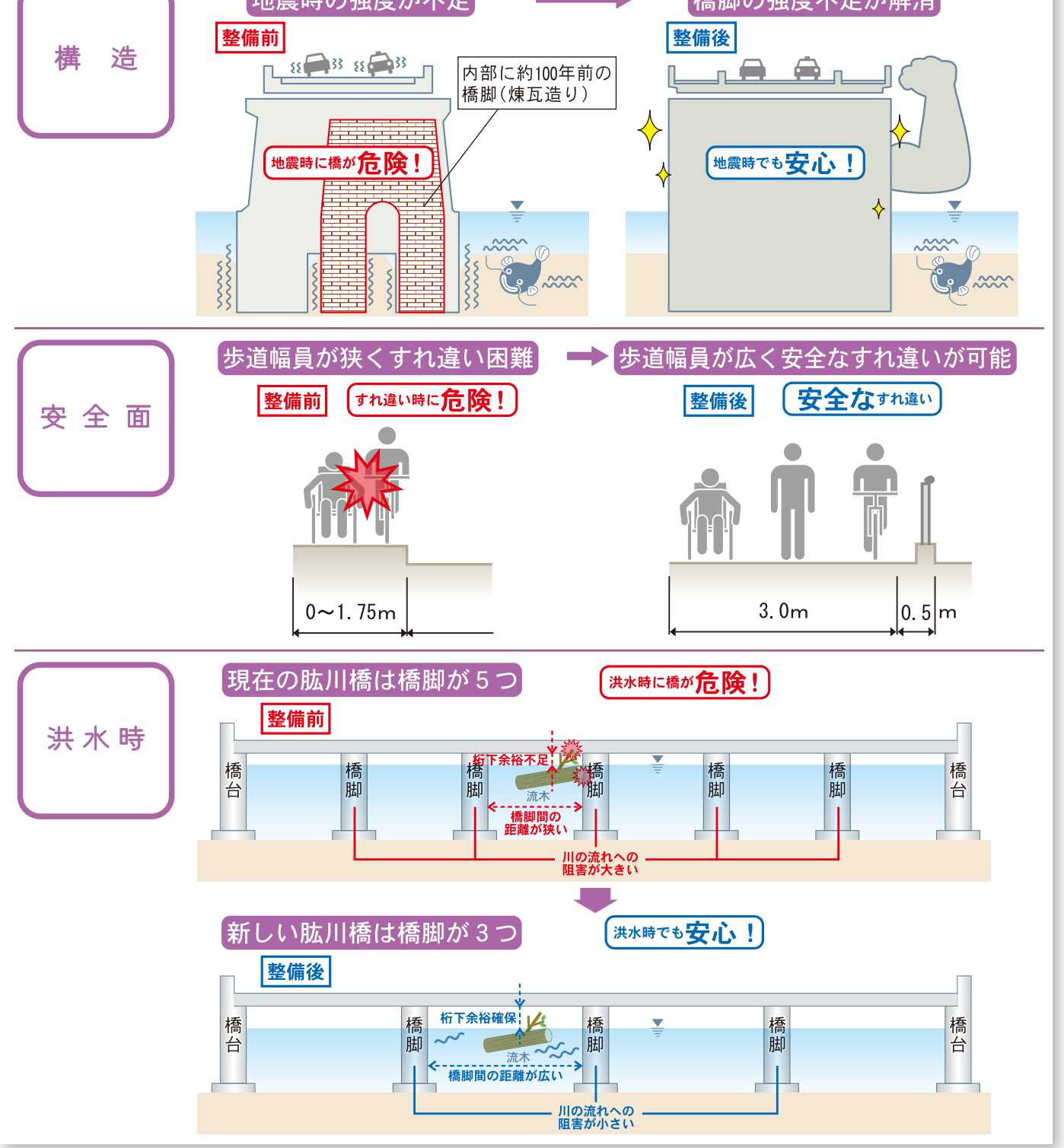
祝！完成 令和4年3月12日

国道56号 肱川橋橋梁架替



国土交通省四国地方整備局 大洲河川国道事務所

現道の課題の解消



過去の肱川の浸水被害

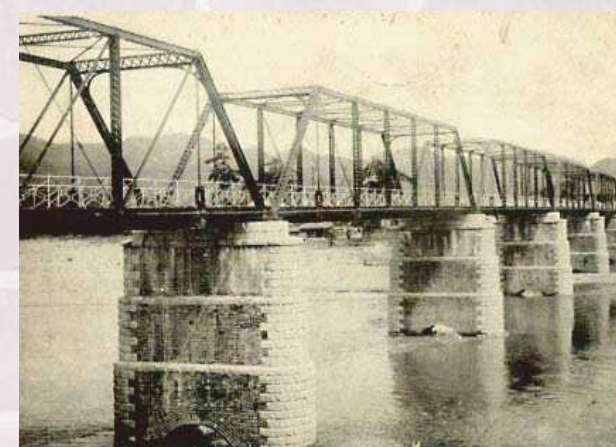
平成16年 8月27日~31日 台風16号 浸水家屋 468戸 浸水面積 535ha 	平成17年 6月5日~6日 台風14号 浸水家屋 330戸 浸水面積 441ha 	平成30年 6月28日~7月8日 台風7号 浸水家屋 974戸 浸水面積 1,392ha
--	--	--

出典：大洲市

肱川橋の歴史

初代 肱川橋

大正2年9月完成。構造詳細は不明ですが、上部工は鋼製の下路トラス橋で、橋脚は煉瓦積みと見られます。



出典：文化歴史資料館



＜大正2年9月15日 初代開通式＞
●煉瓦の橋脚でできた初代

※出典：大洲市誌写真版

二代目 肱川橋

昭和18年頃の写真では、上部工をケーブルで吊る補強を加えています。幅員は5～6mです。



出典：新・南予の夜明け 大洲河川国道事務所



＜昭和18年頃＞
●当時の肱川橋は、歩道が無いので交通安全の看板に「車は左、人は右」と書かれていた。

※出典：大洲市勢要覧

三代目 肱川橋

昭和36年に2車線のプレートガーダー橋に架け替えられ、橋脚はコンクリート製となりました。



出典：新・南予の夜明け 大洲河川国道事務所



＜昭和36年 三代目肱川橋 竣工＞



＜昭和36年 肱川橋改装工事＞

※出典：おおす30年のあゆみ

四代目 肱川橋

昭和42年に、主桁増設によって下流側に向かって2.5mの拡幅を実施しました。



出典：新・南予の夜明け 大洲河川国道事務所



＜平成28年10月30日＞
●肱川橋は大騒ぎ4代目ありがとうイベント

五代目 肱川橋

令和4年3月完成。上流側に仮橋を設置して、橋脚を新しく作り直して3本となりました。また、歩道を3mに拡幅しました。



おまけ

肱川橋以前の浮橋（左）と四代目撤去の際に現れた初代の煉瓦の橋脚（右）



※出典：大洲市誌写真版



出典：大洲市



出典：大洲市



出典：大洲市

肱川橋 橋梁架替事業

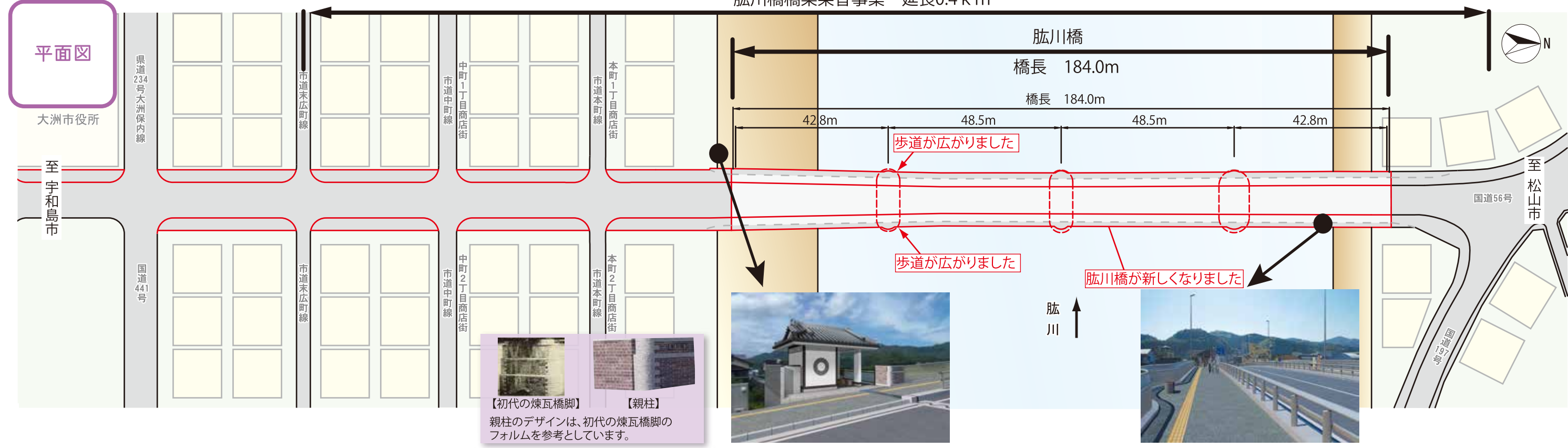
一般国道56号肱川橋橋梁架替事業は、第1次緊急輸送路として位置づけられた重要な路線の一部である肱川橋の地震時耐震性の不足の解消や河積阻害等の治水上の問題の解消、自歩道幅員の確保を目的とした事業です。

路線名	国道56号
事業延長	L=0.4km
事業着手	平成21年度
道路諸元	第3種第2級（設計速度V=60km/h）
車線数	2車線
計画幅員	3.5+0.5+3.25×2車線+0.5+3.5=14.5m
縦断勾配	imax=5.0%
橋梁名	肱川橋
橋長	L=184m

位置図

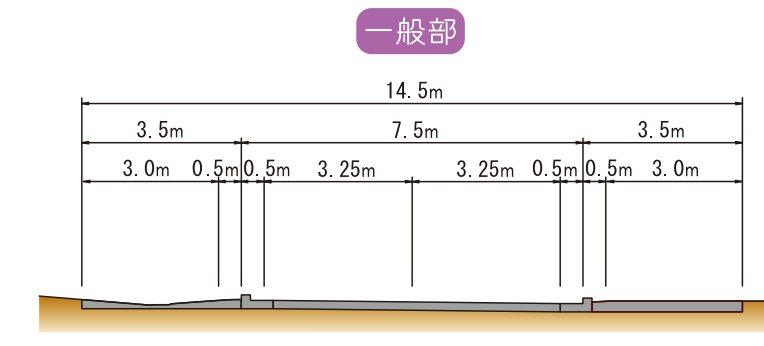


平面図



五代目肱川橋の概要

断面図



側面図

